

# なんじゃもんじゃ

## 飛蚊症の見分け方

「目覚める」という言葉の表現があるように、私達の一日はまず起きて視覚情報を得る（目覚まし時計を見る？）ところからはじまります。昨晩寝るときには何にも問題なかったのに、翌朝起きてみたら何だか物がチラついて見えてしまつて…、などという経験はありませんか？



眼科科長 水野大介

視野に糸くずやクモの巣、水玉、ゴミのようなものが見える、そのような症状を総称して一般的に「飛蚊症」と呼んでいます。いったい、眼の中では何がおきているのでしょうか？

大きく分けると生理的な変化でとくに治療の必要もないもの(①②)と、病的な変化ですぐにでも治療の必要なもの(③④)の2つに分けられます。

### ① 硝子体の正常な構造物による飛蚊症

眼球内は硝子体という透明なゼリー状の内容物で満たされているのですが、様々な要因により硝子体は時間の経過とともに少しずつ濁っていくことが知られています。その原因としては加齢変化によるものが多いため40代後半から60代前半あたりに気になりはじめる方が多いですが、近視の強い人はもっと早期から硝子体が濁ってくるのが知られていますので、そういった人によっては20代前半から飛蚊症に悩まされている方もいるようです。ただし、これは病気ではないため特に治療法というものはありません。

### ② 後部硝子体剥離による飛蚊症

眼内を満たしている硝子体は①で述べたように加齢変化によって濁りを生じるのですが、同時に弾力を失って徐々に液化していききます。そして60歳前後になると網膜面との間に隙間ができるようになります。このことを「後部硝子体剥離」と呼びます。

剥離というと深刻な病気のように聞こえますが、このこと自体はある一定の年齢になれば誰しも起こる変化なので特に心配する必要はありません。隙間ができたところに光が差しこむと急に影ができてはまた消えて、またあるときに影ができてくることを繰り返すため、何か深刻な病気になったのでは？と慌てて眼科を受診される方が多いのが特徴です。これも、やはり特に治療法というものはありません。

### ③ 網膜剥離の前兆としての飛蚊症

目の内側にはカメラのフィルムの役割をしている網膜という神経の膜があるのですがここに穴(裂孔)があくと砂嵐のような細かい粒のような影が見えるようになります。

これは網膜の内部にある細胞や色素が穴(裂孔)から硝子体内に流れ出てくることによつておこるものなので、目を追うごとにチラツキの程度は増えていきますし、症状の進行によつてはどこか一部分が暗くなつたり視野が欠けたように感じることもあります。

### ④ 硝子体に病的混濁を引き起こす病気による飛蚊症

硝子体は①や②の説明にあるような軽度の濁りを起こす以外、基本的には視力が低下するほど大きく濁るようなことはあり得ません。逆にいえば、視力が下がつてしまうほどの硝子体混濁があった場合には何らかの病気が隠れているということです。その原因は出血(硝子体出血)や感染症(眼内炎)、炎症(ぶどう膜炎)など、と決して一つだけではありませんし、場合によっては眼の変化から全身の病気が見つかったという事例も毎日のように経験しています。ときどき目の前が暗くなる一過性黒内障という症状から脳梗塞がみつかることもありますし、眼底の出血の状態から糖尿病(糖尿病網膜症)がみつかることも一度や二度ではありません。

「疲れているんだらう」と軽く見るのではなく、せつかくの身体からのサインなので、これを機会にお気軽にご相談してください。



**「基本理念」**  
私たちは地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

**「基本方針」**  
一、患者さまの権利を尊重し、患者さま中心のチーム医療を展開いたします。  
二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。  
三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。

## 医療安全管理室の紹介

医療の安全・安心を提供する為の活動についてご紹介いたします。

当院では、医療事故防止と発生時の迅速な対応を目的として平成12年より委員会を立ち上げ活動しています。平成18年より医療安全対策室を設置し、専従リスクマネージャー（医療安全管理者）を中心に病院の医師・薬剤師・看護師・ME・放射線技師・事務員・検査技師・栄養士など多くの職種を一チームとして職種に応じた役割を果たしています。

専従のリスクマネージャーは、病院全体から出されるヒヤリとした事やハットした事を分析し、各職種に伝え防止策を一緒に考え実施することが主な役割です。また、職員の教育にも力を入れています。院内の教育では、新採用者・中途採用職員を対象に講義を行ったり、年2回の全職員を対象にした研修も実施しています。



H24 職員研修



当院の理念に基づき、地域の医療関係者への研修参加も呼び掛けています。

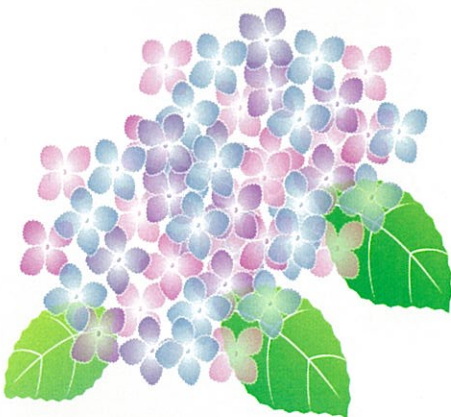
医療は、常に進化しています。その知識・技術をベテランから新人まで同じ様に統一して提供することは、とても難しく、「人間は、間違え行動を起こすもの」を念頭にマニュアルを見直し、周知徹底できるようにシステム化する役割もリスクマネージャーは担っています。市立恵那病院が思いやりあふれる、安全な医療サービスが提供できるように職員一同患者さまの声に耳を傾け、寄り添えるサービスに努めています。

安全の基本は、患者さまとのインフォームドコンセント（治療内容について説明を受け、十分理解した上で治療方針において合意すること）だと考えています。皆さまが気付いてくださった多くのご意見が病院の安全や医療の質につながっています。どうぞ、気付かれたご意見を病院へお聞かせください。

医療安全管理者 柘植美幸



看護師技術研修



# 健康・福祉祭

平成24年6月3日、恵那市主催による健康・福祉祭に参加しました。

健康・福祉祭とは、1年に1回まきがね公園体育館周辺で行われるお祭りです、その名のとおり健康や福祉に関するイベントです。

今年度においては、市立恵那病院も含め17団体の参加がありました。

市立恵那病院のコーナーは、測定部門として①体組成計測、②自己血糖測定、③うつ度簡易チェックを設置し、158名の方に測定して頂きました。

また、市民の方々の医療に対する悩みを気軽に相談して頂くコーナーとして、医師健康相談を設け、21名の方が利用されました。昨年初めて設置した看護師によるアロマテラピーによるリラクゼーションコーナーでは、人気が高く予約制とさせて頂きましたが、25名の予約枠が昼頃には、受付終了となってしまいました。

さらに、体験コーナーとして、乳がんモデルによる触診体験を通して自己検査方法の周知、主に子供を対象としたアクティビティ（作業療法）では、プラスチックシートにマジックペンで絵を書き、オーブントースターで加熱し、キーホルダーを作成しました。終了間際まで170名以上の方に参加頂きました。

受付横には、過去に発行した病院の広報誌（なんじゃもんじゃ）、



糖尿病予防教室のお知らせや看護師募集パンフレットを据え置き、興味のある方には持ち帰り頂きました。  
市立恵那病院は、多くの市民の方々の声に耳を傾けるため、他の行事への参加や恵那市出前講座の講師も務めております。今後も地域の皆様が利用しやすく、親しまれ、信頼される病院となるよう努めます。



## 看護師募集のお知らせ

職 種…看護師（若干名）

休 日…日曜日、土曜日、祝日を含めて月7.5日以上  
有給休暇…最大年間20日（採用月により変動します）

特別休暇…年末年始、リフレッシュ休暇、産前産後休暇、忌引等

※臨時職員（日勤勤務者）看護師も募集しています。左記までご連絡下さい。  
市立恵那病院 電話：0573-26-2121（担当 清原・渡部）